



社会福祉
法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

2006年(平成18年)3月31日

第43号

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒561-0881 豊中市中桜塚 2-28-7 TEL (6848) 1000

URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~tcpvc>

E-mail: tcpvc@gold.ocn.ne.jp

ボランティアグループ
あれこれ

青少年ボランティアグループ 「つぼみ」 編



わたし達「つぼみ」は、登録ボランティア15名程度の学生や社会人を中心としたグループで、高校生から既婚者までと幅広い年齢層ですが、いつも笑いが絶えることのない仲の良いグループです。

学生と社会人が中心のため活動日は土・日が主で、月1回の定例会時に、依頼によって時間に余裕のあるメンバーが参加しています。

活動内容は、老人ホームや養護学校をはじめとする、お花見や夏祭りなど年間を通して四季折々のお手伝いや外出介助、個別依頼やイベントのスタッフと様々な活動に取り組んでいます。活動を通して、様々な方との触れ合いによりわたし達自身も社会勉強させていただいています。

活動でわたし達が頂いた感動と心身の充実感を少しでも多くの方と共有できればと考えているので、今後もボランティア活動を通じて伝えていきたいと考えています。



活動に興味のある方は...

★定例会

毎月第3木曜日 19:00～
福祉会館(中桜塚2-28-7)

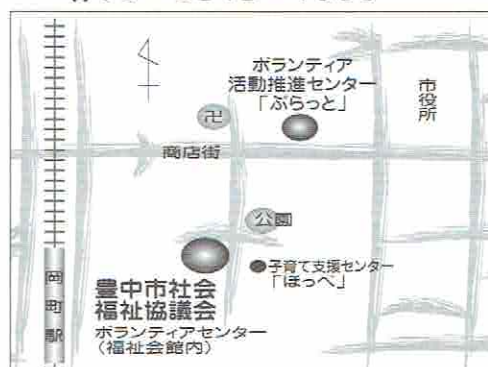
☎06-6841-9393

★お問合せ先

ボランティア活動推進センター
「ぷらっと」

中桜塚2-19-2

☎06-6848-1000



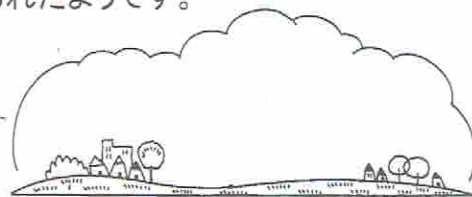
ボランティアレポーター訪問記

施設見学に行かれたボランティアグループの中から、3つのグループに感想を伺いました。皆さん普段の活動につながるような貴重な体験をされてこられたようです。

市社協登録ボランティアグループ「みちしるべ」

山縣 智恵子 さん

昨年、10月28日、奈良・植村牧場へ「みちしるべ」14名で訪問致しました。秋のコスモスが美しい般若寺の向かいにある。『機械化が進む中、手作業。多分、日本一遅れた牧場かもしれません。』と言われる黒瀬 礼子館長にお会いしました。障害者と共に生きる牧場として、愛情と忍耐をもって接し、育成されておられる力強いお姿と、いきさつをお聞きし、感動と感銘を受けました。楽しい有意義な1日を過ごさせて頂きました。



市社協登録ボランティアグループ「ステッキ」

壇 智子 さん

本格的な寒さが到来する少し前、昨年11月16日に私たちは神戸北区の『介護老人保健施設 リハ・神戸』を訪れました。そこは誰でも楽しめる総合福祉ゾーン「しあわせの村」の敷地内、神戸市と神戸医師会からなる神戸在宅ケア研究所により平成12年4月に開設された施設です。施設内は広々としており各階ともフロア全体の見通しが良く車いすでの移動などもスムーズで吹き抜けなど採光も十分に確保され全体に明るい印象がしました。

サービスには、入所・ショートステイ・デイケアがあり、ボランティアさんの受け入れも活発に行われているようです。広大な自然の中で散歩なども取り入れ十分なリハビリに取り組めるのではないのでしょうか。



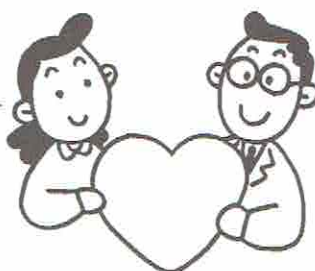
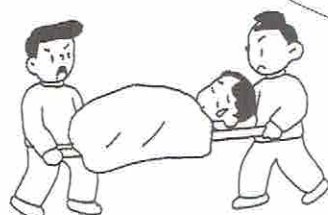
市社協登録ボランティアグループ「そよかせ」

国見 律恵 さん

『人と防災未来センターを見学して』

阪神淡路大震災の映像見て、11年前の被害は、私が想像した以上のものだったと改めて知りました。テレビ、新聞報道で見たのと違い、映像で見る町は、瓦礫の山、火災も起きて、多くの人の命が失われました。震災をうけた人々のことを思い胸が痛みます。

私達は日常地震について対策もしていなかったの、一人一人が普段から心がける必要があります。町には地震が起きたら倒壊しやすい可能性がある建物も有り注意していかなければなりません。又時が経てばつい震災の事は忘れがちになってしまいますが、この経験を忘れる事なく、次の時代に長く語り続けていくことが、私達の使命だと思います。

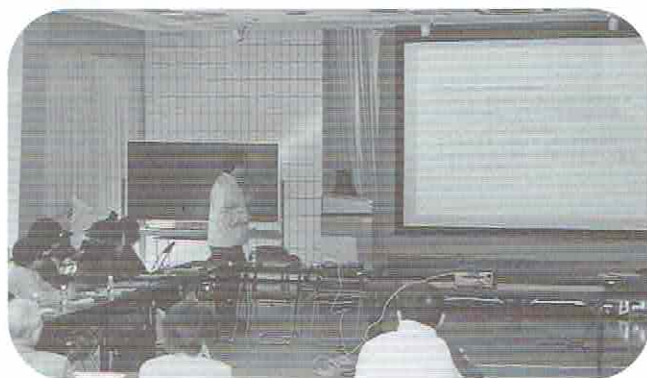




もしもの災害に備えて…

今年も、豊中市社会福祉協議会では災害支援訓練を1月21日(土)に開催しました。午前7時30分に豊中市全域で震度6強の地震が発生したことを想定とした訓練を行いました。

応急手当の講習や、非常食のアルファ米の炊き出し等、各担当に分かれて訓練しました。また、緊急時の連絡手段として無線機を使い、写真による画像をリアルタイムで送受信することができました。より正確で詳しい状況報告をすぐに把握することが可能になりそうです。



梅田さんの講義を熱心に聞いておられます。

災害支援 訓練

災害支援 研修会



西丘校区での安否確認の様子



同日、克明校区社会福祉協議会と西丘校区社会福祉協議会でも、災害支援訓練を実施し、重度障害者等安否確認や炊き出しなどを行いました。

3月4日(土)9時～10時半まで、福社会館にて災害支援ネットワーク加盟団体と市社協ボランティア団体連絡会のグループを対象に災害支援研修会を開催しました。

当日は、豊中市危機管理室室長の梅田 幸治さんをお招きして、「豊中市の災害応急対策について」というテーマで、災害が起きた場合に予測される豊中市内の被害状況などをリアルにお話ししていただきました。また、この研修会を通して日常の自治力・近所の助け合いがいかに重要であるかを再認識することができました。

参加者からは「まずは自分の身を守る為に落下物対策を早急に行い、災害が起きた際はできる範囲でお役に立ちたい。」との感想が寄せられました。

募金へのご協力 ありがとうございました

パキスタン北部地震災害における募金

11月3日(祝) 11:00～15:00に、千里ライフサイエンスセンタービルで行われましたヒューマンバザーで、パキスタン北部地震災害における義援金として募金活動を行ないました。多くの皆様のご協力で、43,753円集まり、豊中市赤十字奉仕団を通じて日本赤十字社に寄付させて頂きました。温かいご支援とご協力どうもありがとうございました。



募金活動中の風景

2/5(日)

第13回 豊中ボランティア



新田南小学校によるバトン発表



豊中市消防音楽隊

今年度(第13回)は、ボランティア手づくりのフェスティバルという新しい考えが功を奏して約1,000人の多数の参加者が集まりました。

フェスティバルは可愛いバントワラーではじまり、中でも来賓の市長や市議会議員がボランちゃんと舞台上で手を取り合った時、また小・中学生の「福祉体験作文発表」で将来頼もしい意見発表を聞いた時、さらに豊中市消防音楽隊の勇壮で美しいマーチの演奏を聴いた時には、ひと際大きな歓声と拍手が上がりました。ボランティアが披露する丹精込めた活動紹介や余興にも、笑いあり感動ありで盛り上がりました。皆さんそれぞれが素晴らしい出来映えでした。

(アクセス M・Y)

ステージ発表



今回、メイン会場のステージでのプログラムは、初めてのものも多く、とても賑やかに行われました。

知的障害者小規模授産施設の「糸をかし」による『桃太郎』のお話をもじった人形劇。また、緑地地区福祉委員会によるステージいっぱい大きな舞台背景の絵を使った『一休さん』の寸劇。

この他にも、バンド演奏・演芸・歌と踊りなどなど…充実した内容でした。ステージで演じておられる方も客席の皆様も大変楽しんでいらっしゃる雰囲気になっていました。



フェスティバル

ファミリーボランティア 体験コーナー



恒例となっているファミリー体験コーナーは手話、対面朗読、インスタントシニア、点字、アイマスク、ホームページ作成、車椅子、リフト付自動車試乗体験の8つの体験ポイントをスタンプラリーで回り、5つのスタンプが集まったら景品をプレゼント！今年も多くの方が参加されました。
(アクセスK・N)

ホームページの作成を担当して下さった「アクセス」の安部さんに感想をレポートしていただきました。

ボランティアセンターのホームページを担当している「アクセス」では毎年来場者にホームページを閲覧してもらっています。最初は恐る恐るパソコンの前に座った人達でも、マウスをクリックするだけで、色んなページを見る事が出来、情報が得られるので、すぐに興味をそそられる様でみるみる顔が輝いてきます。そんな人達を見ているとこちらにまで幸せ感が伝わってきます。

今年はホームページの閲覧以外にも「パソコン相談」を受け付けました。初めての試みで相談者は少数でしたが、上手く問題解決が出来喜んでいただけました。これを機会により多くの人達にパソコンを身近に感じていただければと思います。

福祉体験作文

「体験の中で感じたことと学んだこと」をテーマに市内の小・中学校の児童・生徒を対象に作文を募集し、四名の方にボランティアフェスティバルで発表していただきました。

「シニア体験」

市立第十七中学校 一年 内海 りん

私は、十七中学校の一年生です。総合の時間に「ボランティア」について学びました。そして、実際にいくつかのコースにわかれてボランティア活動をしたり、体験をしたりしました。絵本の読み聞かせ、手話の学習、おもちゃ作りなど十四のコースです。

そのなかで、私はシニア体験というコースを選びました。シニア体験は、正しくは「インスタントシニア体験(高齢者疑似体験)」といえます。耳せんやサポーター、重り、白内障を体験できるゴーグルなどをつけ街中を歩きました。

まず思ったのは「見えない」。でした。白内障対応ゴーグルは、光がさすとまぶしくて見えない、色が違って見える、道の標識は字が見えないと、ちっとも見えないので一人で歩くのはこわいくらいでした。

また最初は速く歩いていたのに、だんだんと足がもつれそうになって、ちっとも支えてもらわないと歩けませんでした。本当にすぐ疲れてしまい、びっくりしました。私の班は、ふつうならば五十四分くらいで行けるコースを歩いたのですが、実際は倍の二時間もかかり、歩くのも時間がかかるなあと感じました。

お年寄りにとっては、私達ならなんでもない、ほんのちよつとのことだが、とても大変なことです。そして、それを少しでも助けてあげたら、お年寄りにはとつてもありがたいんです。私達は「シニア体験」でそれを身を持って知りました。だから、毎日の生活で、お年寄りの手助けをしていきたいです。

〈その他発表していただいた方〉

「私達に出来ること」 桜井谷小学校六年 寺田 真知子

「初体験」 桜井谷小学校六年 岡嶋 小雪

「視覚障害者から見た私達の町」 桜井谷小学校六年 中森 優衣

活動と社会参加をつなぐ ボランティア・トレーニングコース

このコースは、ボランティア活動に取り組んでいる方やNPO 団体・行政職員など様々な人たちが新しい出会いを通して町の課題を共有し、お互いにつながるきっかけづくりをすることを目的に、とよなか国際交流協会、とよなか男女共同参画推進財団、豊中市政研究所、豊中市(市民活動課、職員研修所)、豊中市社会福祉協議会の共催で実施しました。

1回目

1月28日(土) 13:00~16:00

場所→すてっぷ

<オリエンテーション>

講座の趣旨説明の後、参加者の緊張をほぐすためのアイスブレイクを行いました。その後、各分野からそれぞれのボランティア活動や市民活動の状況の説明を受けた後、フィールドトリップ(活動体験)のオリエンテーションも行いました。今年度は、28団体。各受入れ団体の方が団体の紹介を行いました。



「聴くの会」でのフィールドトリップ



まとめのグループワーク

2回目

2月11日(土)

~26日(日)

<フィールド・トリップ(活動体験)>

参加者が、各自希望の団体の活動場所に出かけ、共に活動に参加しました。手話サークル「あさなぎ」のフィールド・トリップに参加された小橋さんは「はじめ手話は難しかったです、手の形をイメージして表現しているので、少しずつ覚えていければ」とのお話でした。

3回目

3月4日(土) 13:00~16:00

場所→福祉会館

<まとめワークショップ>

参加者それぞれが体験してきた、活動や感想を発表するグループワークを行いました。参加者の感想では、「ただ単純に“こうしたらいいと思う”という課題を挙げても、その解決方法には奥深い、難しいものがあるなと感じました。今回、自分が行ってみたいボランティア活動に参加できたことは非常に有意義でした。興味があるボランティアにはどんどん参加していきたいです。」、「いろいろなグループの人との出会いがあって有意義でした。市民、地域、行政のハードルが低くなってボランティア活動が素晴らしいものになっていけたらと思いました。口コミは大切！人と出会うということ、前向きに頑張ります。」などが寄せられました。普段では体験できないことや、新しい出会いの輪を広げられて、新たな糧を得られたのではないのでしょうか。



【受入れ団体からの感想】

市社協登録ボランティアグループ「聴くの会」

上野 宏子 さん

フィールド・トリップに参加して頂いた2名の方は、聴く事に於いてとても適した言葉で対応して下さり、お二人ともボランティアに対する意識が高く意欲も充分持っていられる方々でした。A 君は若い方で、年配の男性の利用者の方にとっては我が息子あるいは孫の様に思えたのでしょうか。私達との会話では出ない様なお話をなさったようです。とても楽しい会話がなされたようでした。そして、新しいエネルギーを多く頂かれたようです。彼には励ましの言葉もかけられたように聞いております。B さんは元ヘルパーさんだったとの事で、適正な判断の元に利用者の方となごやかな雰囲気の中で楽しんで会話をして下さいました。お二人ともとても感じのよい方々でした。

私達もお二人にお会い出来た事で、新しい刺激になり、日々勉強と努力を重ねて利用者の方々とよい会話が出来よう様努めたいと思います。

ボランティアは今

現在たくさんの登録ボランティアの方が活動しておられますが、90歳を超えておられるボランティアの方が3名おられます。その内のお一人の方に元気の秘訣やボランティア活動への思いなどを述べて頂きました。

ボランティアグループ「まどか」

千畑 百合子 さん

私は今日まで長生きできましたのは、趣味の謡曲とボランティアグループ「まどか」へ出席することを生きがいと感じて、その日を心待ちにしていることや、かかりつけのお医者さんの優しい心遣いのお陰と思って感謝しています。

「まどか」での活動は、私自身の出来る切手の整理や御殿まりを作って施設に協力することで目には見えないことですが、どなたかに役立っていることがささやかな喜びにつながっているのです。命の続く限り、この「まどか」の活動は続けていきたいと思っています。



ボランティアステップアップ講座



市社協では登録ボランティアとボランティア団体連絡会加盟グループを対象に、ボランティアステップアップ講座を3月3日(金)市立福祉会館で開催しました。

はじめに「今、これからのボランティア」をテーマに大阪教育大学 教育学部助教授 新崎 国広さんにご講演いただきました。講演の中で「人は必要とされることを必要とする。だから、ボランティア活動を続けられるのでは」との話に受講者のみなさんも大きく頷かれていました。

その後、グループに分かれて、これからのボランティアの役割や、ボランティアセンターに期待する事についてディスカッションを行いました。「新崎先生の講義を受け、誰かに必要とされる事を喜びに感じながら、ボランティア活動を続けていきたい」との感想も寄せられていました。小雪の舞う中、ボランティア活動について熱い議論が飛び交っていました。

安心して活動するために・・・

♡ ボランティア保険ってなあに？

事故が
無いの
が一番
だけど…

ボランティアセンターでは、安心してボランティア活動を行うために、ボランティア活動に関する各種保険の取扱を行っています。

★ ボランティア保険とは…

ボランティア活動中(日本国内)の偶然な事故により、

- ① ボランティア自身がケガをした場合に対する「傷害保険」
 - ② 活動対象者などの他人の身体・財物に損害を与えた場合に対する「賠償責任保険」
- がセットになった、ボランティア専用の保険です。

* 小・中・高校生も加入できます。

* 1名あたりの年間保険料: Bプラン 500円
Cプラン(天災担保) 700円

補償期間は、申込日の翌日から翌年4月1日の0時まで。

★ 対象となるボランティア活動とは…

自発的に社会に貢献する目的をもって日本国内で取り組まれる活動で、かつ

- ① 無償の活動(交通費、食事代、材料費など費用弁償程度の支給は無償の範囲に含まれます)
- ② 所属ボランティア団体における活動
- ③ 活動のための学習会、研修会、会議や活動場所への通常経路による往復途上も活動中とみなします。

* 自助活動や、海難、山岳救助ボランティアなど一部対象外になる活動があります。

★ 保険金が支払われる事故例

【傷害事故】

- ・ 活動先に向かう途中、ボランティアが交通事故に遭いケガをした。
- ・ 老人ホームで活動中、ボランティアが階段から転落し骨折した。
- ・ 活動中食べた弁当が原因でボランティアが細菌性食中毒になった。

【賠償責任事故】

- ・ 障害者の車イスの操作を誤り、転倒させてケガを負わせた。(対人)
- ・ 老人ホームで活動中、誤って器物を破損した。(対物)

※支払われない場合については、被保険者本人の脳疾患・疾病または心神喪失によるケガや、頸部症候群(いわゆる「むちうち症」)または腰痛で他覚症状のないものなどがあります。



* この他にも、「ボランティア・市民活動行事保険」、「非営利・有償活動団体保険」、「移送中事故傷害保険」があります。なお、上記保険は、平成18年度の内容です。今後改正される場合があります。詳細については、ボランティアセンターまでお問い合わせください。

編集後記



ボランティアセンターへの登録期間は年度単位です。新たに登録された方又継続し今年もと張り切っておられる方、互いに謙虚さを忘れず、共感の気持ちを大切にして、自分の健康と生きがいにプラスになるよう活動の輪を横に広げていきましょう。

(豊中アッシー T・I)